

令和 8 年度 市長とセットトーク意見交換要旨

開催日：令和 8 年 8 月 20 日（木曜日）14 時 30 分～15 時 45 分

開催場所：牛窓町公民館鹿忍分館

団体・グループ名：鹿忍地区まちづくり協議会

テーマ：①人が集まる施設や場所にカフェなどの休憩施設が欲しい。

②市営バスの増便や土日祝にも運行してほしい。

★意見交換要旨★

- ・人が集まる場所や施設にカフェのような休憩施設が欲しい。特にこの鹿忍分館はバス停の前にあるため、暑い時や寒い時にバスを待つ間、皆が集まって過ごせる場所にしたい。地域活性化のために、この施設を貸してもらえるか、あるいは指定管理として運営させてもらえるか。

（市長）

市が保有する土地や建物は、民間や地域で利活用してもらうのが基本方針である。

鹿忍分館を公的に「指定管理」として貸し出すには、建物の耐震化が必須となる。しかし、耐震工事には数億円単位の費用がかかり、市内の全施設を同様に整備する財源はない。そのため、市が責任を持って「貸し出す」という決定は現状難しい。

現在のルール の 範囲内 で、鹿忍まちづくり協議会で予約してある時間枠での、地域活動の延長としての活用を検討してはどうか。

- ・鹿忍分館などの老朽化が進んでいる施設を今後どうしていこうと考えているのか。

（市長）

瀬戸内市には合併時の取り決めとして、「40 年間で 40% の施設を統廃合して、市役所が管理するスペースを減らしていく計画（毎年 1% ずつ削減）」がある。

そのため、行政としては基本的に管理施設を減らす方向で動かざるを得ない。

公共施設を活用した民間ホテル・企業の積極的な誘致を成功させることで、人口減少を食い止め、施設維持のストーリーを作りたい。

- ・高齢者が多いため、市営バスの増便や土日祝日の運行をお願いしたい。また、過去に牛窓地域で実施していたデマンド方式（予約制）の復活や併用はできないか。

（市長）

ドライバー確保の観点から、土日だけの運行を受託してくれる事業者がおらず、増便する場合は平日も含めたパッケージで多額の予算が必要になる。

また、バス運行には「1 便 50 分以内」という利便性の維持及びドライバーの安全確保のためのルールがある。令和 8 年 4 月に行った鹿忍までの延伸もギリギリ 50 分以内に収めているため、これ以上の延伸には新たな路線編成が必要になる。

過去にデマンド方式で実証を行った際、事前に予約をして利用するという方が非常に少なかった。現在は「決まった時間にそこに行けば乗れる」という定時路線の利便性を高めることがベストだと考えている。

・市営バスの運行コストはどのくらいかかっているのか。またどのくらい赤字なのか。

(市長)

市営バスの運行には年間で約1億数千万円がかかっているのに対し、運賃収入はわずか1,000万円程度で、実質約1億円以上の赤字である。

それでも運行が続けられているのは、この赤字額の8割を国からのお金(交付税)で補填してもらえる」という仕組みがあるからである。

一方で、観光客向けの「観光路線バス」には国のお金が出ないため、県からの補助や、観光の恩恵を受ける地元企業に資金を出してもらえないと難しい。

・旧西幼稚園の建物をいつになったら使わせてもらえるのか。現在は鹿忍まちづくり協議会が年に2回草刈りをして管理している状況。地域の集まりの場として活用したい。

(市長)

建物の老朽化が激しく、水道も通っていない状態である。安全性の確保や改修には多額の費用がかかるため、行政が主導しての開放は容易ではない。地域でどのような活用をしたいか、まずは鹿忍まちづくり協議会の中で具体案を揉んでほしい。

・鹿忍地区の人口が減り、子供も少なくなっている。現在3つある小学校を1つにまとめる考えはあるか。また、学校がなくなると地域がさらに寂れてしまうのではないかと懸念している。

(市長)

瀬戸内市全体では、転入者が転出者を上回っており、特に0~4歳児の増加率は11年連続で岡山県内1位である。ただし、駅周辺に人口が集中している傾向はある。

若者を呼び込むには「働く場所」が必要である。現在、市内の遊休地や企業跡地への企業誘致・ホテル誘致を積極的に進めており、雇用を生むことで定住を促したいと考えている。

住む人が増えればまちに賑わいが生まれ、子どもが増える。

また、学校の統廃合に関して、牛窓地域にお住まいの方にアンケートを行ったところ、統廃合したほうが良いという意見が多かった。ただし、どこに統合するのが良いかという結論は出ておらず、引き続き地域の方の意見を聞き、考えをまとめていく必要がある。統合するにしても、ただまとめるだけでなく、特徴のある魅力的な学校にする必要がある。

・移住者として、DIYセンターや不要な道具を貸し借りできる場所など、地域の人と新しい人が物作りを通じて交流できる場所を作りたい。できれば近年増えている空き家などを活用したいと考えている。

(市長)

素晴らしいアイデアなので、ぜひ実施してほしい。

市としても空き家活用の専門業者(カチタス、アルバリンク等)と連携を始めている。

行政が介入するよりも、地域のネットワークで「固定資産税分だけで貸してくれる」といった物件を見つける方が、安く活動を始められる可能性がある。